

「山梨・静岡・神奈川三県サミット」初の開催

山梨・静岡・神奈川の三県の知事による初めての「山梨・静岡・神奈川三県サミット」が昨年10月26日に、神奈川県大磯町で開催されました。

今回のサミットでは、豊かな自然や歴史・文化遺産などの地域資源に恵まれ、国際的な観光地である富士箱根伊豆地域の広域的な行政課題について協議し、宣言を採択しました。

宣言には、富士箱根伊豆地域を一体的な圏域として位置付け、観光振興、防災対策、環境対策、交通体系整備など、三県共通の取り組みを連携協力して行うことが盛り込まれました。

そのうえで、三県が連携した効果的な



握手を交わす三県の知事

プロモーション活動を展開することにより、外国人観光客の誘致などに取り組むこと。また、国土形成計画への位置付けを視野に入れた、富士箱根伊豆地域の将来展望や事業展開の方向性などを検討するため、三県による検討組織を設置することで一致しました。

このほか、富士箱根伊豆地域における廃棄物不法投棄対策の連携組織を設置すること。富士スピードウェイにおけるF1開催を機に、交通体系の整備促進や観光振興を図ること。河川での事故の発生を未然に防ぐため、雨量・河川水位などの防災情報を共有し、連携・協力体制を構築することも合意されました。



広域的行政課題について協議したサミット

「中部横断自動車道用地事務所」身延町に設置

中部横断自動車道の用地取得などを目的に「中部横断自動車道用地事務所」が昨年11月1日、身延町に設置され、開所式が行われました。

中部横断自動車道は、県土の南北方向の基幹軸を形成する幹線として、本県にとって不可欠な道路です。他県との交流や産業・経済・観光振興の基盤としてはもとより、災害時の緊急輸送路としても大きな効果が見込まれます。

昨年2月の第2回国土開発幹線自動車道建設会議において中部横断自動車道の整備方針が決定され、六郷IC(仮称)～富沢IC(仮称)間については国が整備を行う「新直轄方式」で整

備されることになりました。また、増穂IC～六郷IC(仮称)間、富沢IC(仮称)～吉原JCT(仮称)間については、「有料道路方式」による整備が中日本高速道路株式会社により継続されます。「有料道路方式区間」は、平成28年度から29年度に完成する予定であることから、県では、「新直轄方式区間」についても、同時期に完成するように国に強く働きかけています。

今回設置された用地事務所では、中部横断自動車道の早期完成に向けて、地元の方のご意見・ご要望を現地で迅速かつ正確に把握しながら、スムーズな用地取得を目指してまいります。



用地事務所の看板を設置する山本知事



事務所前で行われた開所式

富士山世界文化遺産登録に向け文化庁に暫定リスト素案を提出

「富士山世界文化遺産」暫定リスト素案が、昨年11月10日、山梨・静岡両県知事から文化庁に提出されました。素案では、資産名称を「富士山(Mount Fuji)」とし、富士山は多様な信仰の場、芸術作品の母体、人々の精神的よりどころなどさまざまな役割を持つ価値の高い遺産であることが説明されています。

また、富士山を含めた遺産の登録範囲に入る42の資産候補(両県共通3、山梨県側23、静岡県側16)のリストも提出されました。



近藤信司文化庁長官に暫定リスト素案を提出する両県の知事

「やまなし逸品 WEEK」富士の国やまなし館で開催

山梨の3大地場産業－ワイン・ジュエリー・織物の逸品や話題性のある製品を集めた展示会「やまなし逸品 WEEK」が、昨年10月30日から11月7日まで、東京日本橋にある「富士の国やまなし館」で開催されました。

展示会では、新しいプラチナジュエリー「Koo-Fu(クーフー)」や「ふじやま織」、「甲斐絹座」、「糸の音」などの郡内織物の展示、2006年国産ワインコンクールで金賞・銀賞を受賞した県産ワインの販売も行われ、やまなしブランドが首都圏消費者にPRされました。



受賞ワインの説明を熱心に聞く来館者

県立博物館 開館一周年記念特別展「祈りのかたち－甲斐の信仰－」開催

県立博物館では、開館一周年記念特別展「祈りのかたち－甲斐の信仰－」が、昨年10月14日から11月20日まで開催され、11,000人が訪れました。

この特別展は、16件の国指定重要文化財をはじめ、県指定文化財など51件の県内仏教美術の精華を「祈りのかたち」として一堂に集めたもので、山梨の信仰の歴史を概観する初めての機会となりました。会場では、多くの観覧者が、甲斐の風土によってはぐまれてきた豊饒な祈りの世界を堪能していました。



関連イベント「親子でみつけよう ほとけさまのフシギ」

「大学コンソーシアムやまなし」設立

県内の12大学が連携して事業を展開するための母体組織「大学コンソーシアムやまなし」が昨年9月21日、設立されました。この組織では、他大学の講義を受けて単位を得られる「単位互換制度」や、社会人向け生涯学習講座の実施などにより、各大学の魅力アップを図っていきます。大学の発展は、地域の活力向上と経済の活性化にもつながることから、県や経済団体なども支援をしていきます。この日は、山本知事から貫井理事長に県産材で作られた看板が贈られました。



山本知事から看板を受け取る貫井理事長(山梨大学学長)